

オムロン株式会社 2016年度1Q決算
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)

(2016年7月28日、東京)

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 事業売却の基準は？

A: 従来から経済価値、市場価値の観点で基準を設定し、全社で事業売却を含めたポートフォリオマネジメントを行っている。具体的にはROICなどを指標とし、ハードルレートを設定している。もしその基準に達しない場合は構造改革を実施し、成果が出ない場合は撤退などを検討している。

Q: バックライトから撤退する考えはないのか？

A: 現状、撤退する考えはない。前年度の収益構造改革に続き、現状も構造改革を継続している。

Q: 円高により通期の業績達成に影響が出ると考えるべきか？

A: 円高は業績達成に影響を与える。事業環境に不透明感が出ている中で、円高による落ち込む分をカバーしていくことは厳しいと認識している。また、新興国通貨が基軸通貨のUSD、EURと乖離して推移していることも、業績に影響を与えている。

◆ 技術

Q: 今回説明のあった技術は何年後から収益に貢献し始めるのか？

A: 基本的には5～10年後に収益に貢献できると考えている。

Q: バックキャストの考えにより事業運営をどのように進めていくのか？

A: オムロンが目指す未来像を経営の中で共有し、そのコンセプトを変えないことが重要だと考えている。世の中の動きが非常に速く、オムロン単独での事業運営には限界があると感じており、オープンイノベーションを推進していく。

◆ 制御機器事業 (IAB) 関連

Q: 1QにおけるIAB国内の売上実績が前年同期比△3%の中、通期は前年度比+4%としているが、通期見通しの達成は難しくないのか？

A: IAB全体で達成を目指している。国内の通期見通しの達成はやや難しいと見ているが、中国は市場環境が厳しい中でも好調に推移しており、国内分をカバーできると想定している。

Q: デルタ タウ社、アデプト社を買収したことによる成果は出ているのか？

A: 成果は出てきている。4月にロボットをグローバルで一斉に発売し、相当数の商談が発生している。今はその商談をひとつひとつ対応しており、本格的に売上に寄与するのはもう少し先になると考えている。

◆ ヘルスケア事業 (HCB) 関連

Q: フクダ電子との提携の成果はいつ頃出てくるのか？

A: オムロンコーリンの売却はまだクロージングしておらず、成果が出てくるのはまだ先と考えている。ヘルスケア事業としてこのような事業提携は初めての取り組みであり、期待は非常に大きい。
